

再評価結果(令和8年度事業継続箇所)

担 当 課:道路局国道・技術課

担当課長名:西川 昌宏

事業名	一般国道57号 （中九州横断道路）<		
-----	---	--	--

熊本県の意見:

今回意見照会のありました一般国道57号竹田阿蘇道路、一般国道57号滝室坂道路、一般国道57号大津道路、一般国道57号大津熊本道路(大津西～合志)、一般国道57号大津熊本道路(合志～熊本)および一般国道57号熊本環状連絡道路の事業に関する国の「対応方針(原案)」案については、異存ありません。

「中九州横断道路」は、九州の横軸として大分県大分市と熊本県熊本市を結ぶ重要な高規格道路であり、大規模災害に対応できる「命の道」、九州全体の経済を支える「経済の道」、そして沿線市町村の「地方創生の道」として、大きな効果が期待される道路です。

特に沿線では、世界的半導体企業であるTSMC関連のJASMの第1工場が本格稼働し、また、第2工場についても年内の着工が予定されるなど、更なる企業集積の進展が見込まれており、国家プロジェクトであるTSMCの進出を契機に「新生シリコンアイランド九州」の実現、さらには、日本の「経済安全保障」へとしっかりつなげていくためにも、本道路の早期整備が不可欠です。

つきましては、コスト縮減に配慮しつつ、現在事業中の竹田阿蘇道路、滝室坂道路、大津道路、大津熊本道路(大津西～合志)、大津熊本道路(合志～熊本)および熊本環状連絡道路の整備推進と併せて、「大津西IC～下硯川IC」間の早期整備に向けた有料道路事業の導入に特段の御配慮をお願いいたします。

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、事業継続。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

沿線地域の人口及び一世帯あたりの自動車保有台数は増加傾向。並行現道(国道57号)の交通量は、大津熊本道路(大津西～合志)の並行区間で約2.8万台/日で推移。

事業化時と比較して、社会的情勢の大きな変化は認められない。

事業の進捗状況、残事業の内容等

令和4年度に事業化、用地進捗率約1%、事業進捗率約3%(令和7年3月末時点)

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き残工事等の事業進捗を図っていく。

施設の構造や工法の変更等

施設の構造や施工等に変更はないが、新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト縮減に努める。

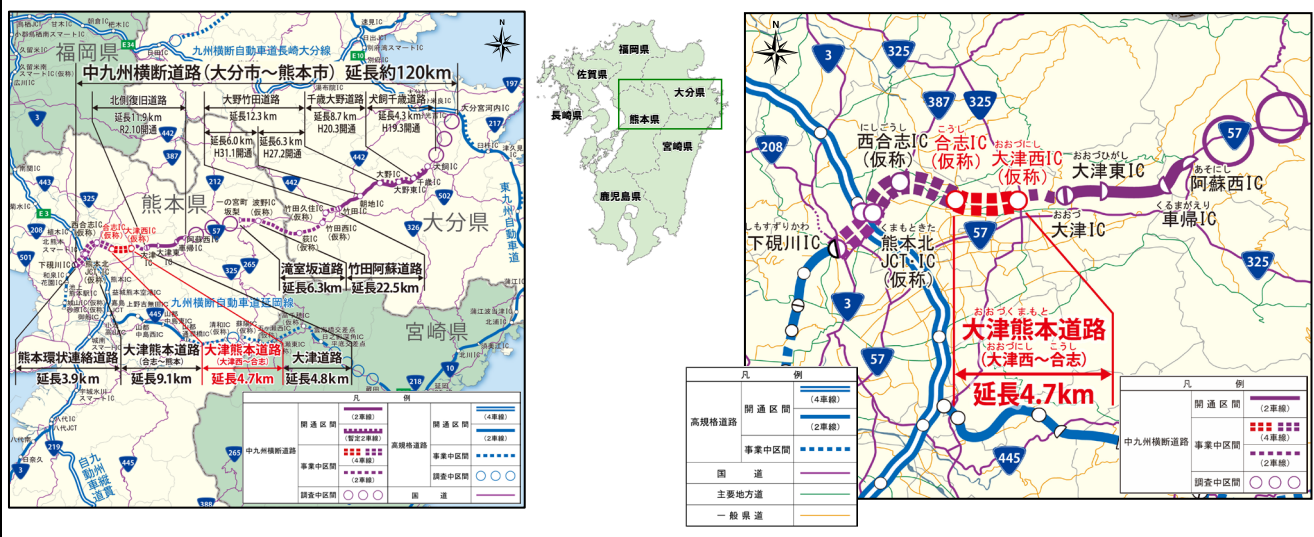
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。(〔 〕内は社会的割引率の値)

(※B/Cの値は、大分宮河内IC～下硯川ICを対象とした場合、()書きの値は事業化区間を対象とした場合の費用便益分析結果。)